

## 対象年代別女性ファッション誌のレイアウト研究

丹羽 沙奈栄

雑誌の中には、同じテーマを扱っているにも関わらず、対象としている年代が異なるものが数多く出版されている。特に女性ファッション誌は10代から50代まで様々な年代へ向けた出版が行われている。そこで、対象とする年代別に女性ファッション誌のレイアウトの調査をし、代表的なレイアウトの型を明らかにすることで、今後、雑誌を創刊する際の一助になればと考え、研究を行った。

まず、『雑誌新聞総かたろぐ』を元に調査対象となる女性ファッション誌を抽出した。結果として、雑誌が対象とする年代は5グループに分けられ、その各々から3誌ずつ調査を行った。次に、雑誌のレイアウトづくりの方針を決める記事の主題を調査した。そして、記事の主題ごとに、「グループ」(文字や図のまとまり)が見開き2ページにおいて①どういった役割を持っているのか ②どういった形式を取っているのか(書体・サイズ・色) ③どのように配置されているのかを調査した。調査は、目次に掲載されている記事の表題ごとに行っていった。

全15誌3250ページ中1123ページに対して調査を行った結果、以下のことが判明した。

- (1)10代を対象とした雑誌：書体はゴシック体が68%を占めており、手書きの文字もみられた。文字の中に柄が入ったものや、塗潰し色・背景色と相対的な色を持った縁色、ぼかし加工がさせた縁色があった。人物を中心とした配置が多い。
  - (2)20～30代を対象とした雑誌：書体はゴシック体が63%を占めており、タイトル・見出しには英字が多用されていた。縁色は白または黒であった。塗潰し色と背景色は同系色でまとめていた。人物を中心に、商品を数点並べた配置が多い。
  - (3)30～40代を対象とした雑誌：書体はゴシック体が64%を占めており、タイトル・見出しには英字が多用されていた。縁色は白または黒であった。塗潰し色と背景色は同系色でまとめていた。または、塗潰し色か背景色が白または黒となっていた。人物と商品が同等となるような配置が多い。
  - (4)40代以上を対象とした雑誌：級サイズは、見出しなどを除いて同程度の大きさに揃っていた。書体は明朝体が40%、ゴシック体が39%であった。背景色がある場合、塗潰し色か背景色が白または黒となった。人物を中心とし、商品を抑えた配置が多い。
  - (5)複数の年代を対象とした雑誌：明朝体は42%、ゴシック体は21%となっていた。タイトルや見出しには英字が多用されていた。背景色がある場合、塗潰し色か背景色が白または黒となった。商品を中心とし、人物を補足的に使用した配置が多い。
- 以上に基づき、レイアウトのテンプレートとも呼べるものを作成した。

(指導教員 三波千穂美)